

音楽科教育における鑑賞教材を通した授業づくりについて

－ 主体的学びの実現に向けた指導法の提案 －

An examination of the appreciation for class in music education

- with special consideration to the subjective way of learning -

藤山あやか

Ayaka TOYAMA

キーワード：音楽科教育・小学校音楽科・鑑賞教育

近年、教育現場では、基礎・基本となる知識を活用し課題に取り組むために必要な思考力・判断力・表現力の育成を重視することが求められている。新学習指導要領の改訂に際しても、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が基本方針に挙げられており、各教科において身に付けた知識および技能を活用し、それらを相互に関連付けてより深く理解し、情報を精査して考えを基に創造する過程を重視した学習の充実を図ることが求められている。その実現に向けて、各教科の解説書の基本方針では、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善のあり方が明記されている。

さらに、大学教育の質的転換の実践についても、平成24年8月に公示された中央教育審議会による「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」の答申において、これから求められる資質能力の育成に能動的学修を取り入れる必要性が指摘されている。教職課程においても、主体的学修を促す授業展開が不可欠であり、実際の

教育現場において求められる資質能力を伴う実践的な人材育成に努めなければならない。

これらを実現する教育内容について、小学校音楽科における授業展開の可能性を「鑑賞領域」を中心に考察する。

1. 小学校音楽科の内容について

音楽科の内容は、「A表現」と「B鑑賞」及び〔共通事項〕で構成されている。新学習指導要領では、音楽科の内容を、「思考力、判断力、表現力等」、「知識」、「技能」の資質・能力に対応するように構成している。「B鑑賞」の内容については、次のように示されている。

- ア 曲の演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。(思考力、判断力、表現力等)
- イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。(知識)

鑑賞の活動は、これら二つの要素を相互に関連させることにより、音や音楽および言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけられるようにすることを、指導の配慮事項として示している。学校教育においては、その授業に参加している生徒が他者と関わりを持ち、個人学習やグループ学習さらに全体学習と、様々な学習形態の中で有機的な関連を持つことで自己を生かすことが必要であると考えます。

ここでは、学びの質や深まりを重視するアクティブ・ラーニングや、そのための指導方法を充実させる手段として、言語活動を課題解決の過程に位置付け、「鑑賞領域」の授業において知識・技能の活用を図る授業内容を提案したい。

2. 小学校音楽科の鑑賞教材について

知識・技能の活用を図る言語活動に関して、音楽科では、音楽のよさを生み出して

いる様々な要素の働きを聴き取り、イメージや感情を比喩的な言葉で表現し、音楽に対して根拠をもって自分なりに批評できる力を育てることに配慮して学習計画を構成することが重要である。鑑賞の授業は、題材とした楽曲に対して意見を持ち、自らが感じたことを他者に発信するという過程の中で、思考力・判断力・表現力を深めることが期待できる。従って、教育現場における教員の授業構成力、つまり一つの題材から多面的な授業を展開する力が求められるのである。

小学校音楽科において採用されている教科書は教育芸術社、教育出版の2社である。ここでは、両出版社において取り扱っている鑑賞教材を概観すると同時に、取り扱われている作品について、楽曲の選択および分析の視点を中心に授業展開のあり方について提案したい。

以下、各出版社において取り扱っている鑑賞教材一覧表を提示する（表1、2）。

表1：教育出版社（平成27年度版）

学年	曲名	作曲者	曲名	作曲者
1	ピンク・パンサーのテーマ	マンシーニ	げんこつやまのたぬきさん	わらべうた
	サンダーバード	グレイ	たけのこ め だした	わらべうた
	どうけしのギャロップ	カバレフスキー	ジェシカ	レーティネン
	なみをこえて	ローサス	どれみのうた	ロジャーズ
	ぞう	サン・サーンス	こうしんきょく	チャイコフスキー
	わらべうた		おどるこねこ	アンダソン
	うちのうらのくろねこが	わらべうた	おもちゃのへいたい	イエッセル
2	ジェッディン デデン	トルコの音楽	日本のたいこ	
	とうしんどーイ	沖縄県民謡	さんさおどりのたいこ	岩手県

	かめんぶとう会のワルツ	ハチャトゥリヤン	つがるじょっぱりだいこ	青森県
	マンボ ナンバーファイブ	プラード	ごじんじょだいこ	石川県
	ミッション インポッシブルの テーマ	シフリン	はちじょうだいこ	東京都
	ノクターンだい2番	ショパン	そりすべり	アンダソン
	ゆかいなまきば	アメリカ民謡	しゅっぱつ	プロコフィエフ
	こいぬのビンゴ	アメリカ民謡	ティニックリング	フィリピン民謡
	どうぶつえんへ行こう	パクストン	組きよく「ハーリ・ヤーノシ ユ」から ウィーンの音楽時計	コダーイ
	ゆかいなとけい	アンダソン	クリスマス ソング メドレー	編曲：大島ミチル
3	リコーダーは歌う		日本や世界の子どもの歌	
	いつも何度でも	編曲：金子健治	十五夜さんのもちつき	日本
	「小鳥のために」から「うそど り」	作曲者不明	陽気なかじや	オーストリア・ド イツ
	クラリネットをこわしちゃった	フランス民謡/編 曲：金子健治	半月（バンドル）	韓国
	「小鳥のために」から「森ひば り」	作曲者不明	キパパーキ パパパ	タンザニア
	大きな古時計	ワーク/編曲：金子 健治	あつい豆がゆ	イギリス
	まほうのチャチャチャ	ホリン	せいじゃの行進	アメリカ民謡
	ユモレスク	ドボルザーク	組曲「アルルの女」から メ ヌエット	ビゼー
	白鳥	サン・サーンス	ピーターとおおかみ	プロコフィエフ
4	さくら変そう曲	宮城道雄	サムルノリ	韓国
	ミュージカル「サウンド オブ ミュージック」から	ロジャーズ	サンバの音楽	
	トルコ行進曲	ベートーベン	リオのカーニバルの様子	ブラジル リオデ ジャネイロ
	「アンナ・マグダレーナ・バッ ハの音楽帳」からメヌエット	ペツォルト	ブラジル	バローゾ
	「水上の音楽」から アラ ホー ンパイプ	ヘンデル	ノルウェー舞曲 第2番	グリーク
	葛西ばやし	東京都	歌げき「魔笛」から	モーツァルト

5	いろいろな合唱		グリオの語りとコラの演そう	セネガルほか
	花	滝廉太郎	ウード	イラクほか
	箱根八里	滝廉太郎	ホーミー	モンゴル
	「唱歌の四季」から	三善晃	アルファー	中国
	組曲「カレリア」から「行進曲 風に」	シベリウス	ガムラン	インドネシア
	会津磐梯山	福島県	ゴスペル	アメリカ合衆国
	音戸の舟歌	広島県	フォルクローレ	ペルー・ボリビア ほか
	世界の音楽		つるぎのまい	ハチャトゥリヤン
	バグパイプ	スコットランド (イギリス) ほか	ピアノ5重そう曲「ます」第 4楽章	シューベルト
	ヨーデル	スイス・オースト リアほか	長唄「越後獅子」から	九世 杵屋六左衛 門
	ブルガリアの合唱	ブルガリア	京の夜	六世 福原百之助
6	ハンガリー舞曲 第5番	ブラームス	交響曲第9番「新世界より」 第4楽章	ドボルザーク
	カノン	パッヘルベル	別れの曲	ショパン
	交響曲第5番「運命」第1楽章 から	ベートーベン	雨の樹	武満徹
	バイオリンとピアノのためのソ ナタ 第4楽章	フランク	ラプソディー イン ブルー	ガーシュイン
	春の海	宮城道雄		

表2：教育芸術社（平成27年度版）

学 年	曲名	作曲者	曲名	作曲者
1	さんぽ	久石譲	シンコペーテッド クロック	アンダソン
	しろくまの ジェシカ	ケン ウォール	さんちゃんが	わらべ歌
	「ぶん ぶん ぶん」による みつ ぱちのぼうけん	橋本祥路	おおなみ こなみ	わらべ歌
	おどる こねこ	アンダソン	ラデツキーこうしんきよく	ヨハン シュトラ ウス（父）
2	ロンドンばし	イギリスの遊び歌	だがっき パーティー	長谷部匡俊

	子犬のビンゴ	アメリカの遊び歌	人形の ゆめと 目ざめ	エステン
	トルコこうしんきょく	ベートーベン	ずいずい ずっころばし	わらべ歌
	メヌエット	ベツォルト	あんたがた どこさ	わらべ歌
	どれみのうた	ロジャーズ	くみきょく「くるみわり人形」から こうしんきょく	チャイコフスキー
3	ナイチンゲール	作曲者不明	トランペットふきの休日	アンダソン
	小鳥のために スズメ	作曲者不明	「12の二重奏曲」からアレグロ	モーツァルト
	小鳥のために 森ヒバリ	作曲者不明	神田囃子	東京都
	小鳥のために ムクドリ	作曲者不明	花輪ばやし	秋田県
	きらきら星	フランス民謡	小倉祇園太鼓	福岡県
	メヌエット	ベートーベン	「アルルの女」第1組曲から かね	ビゼー
4	歌劇「魔笛」から パパゲーノと パパゲーナの二重唱	モーツァルト	ソーラン節	北海道民謡
	ブラジル	バホーゾ	南部牛追い歌	岩手県民謡
	組曲「動物の謝肉祭」から 白鳥	サン＝サーンス	トラジ打令	朝鮮半島民謡
	美しきロスマリン	クライスラー	小さな単黄色の馬	モンゴル民謡
	「アルルの女」第2組曲から フ ァランドール	ビゼー	さくらさくら	日本古謡
	「アルルの女」第2組曲から メ ヌエット	ビゼー	「ペール ギュント」第1組 曲から 山の魔王の宮殿にて	グリーク
	クラリネット波尔カ	ポーランド民謡	舞踏組曲「ガイヌ」から つ るぎのまい	ハチャトゥリヤン
5	アイネ クライネ ナハトムジ ーク 第1楽章	モーツァルト	春の海	宮城道雄
	双頭のわしの旗の下に	J. F. ワーグナー	声による世界の国々の音楽	
	威風堂々 第1番	エルガー	ライプニッツの歌（ヨーデ ル）	スイスなど
	待ちぼうけ	山田耕筈	ケチャ	インドネシアなど
	赤とんぼ	山田耕筈	故郷（ホーミー）	モンゴル
	この道	山田耕筈	南部協会の音楽（ゴスペル）	アメリカ
6	メヌエット	ベツォルト	楽器による世界の国々の音 楽	

管弦楽組曲「惑星」から 木星	ホルスト	勇敢なるスコットランド（バグパイプ）	イギリス
ハンガリー舞曲 第5番	ブラームス	ジェッディン デデン（メヘテルハーネ）	トルコ
花	滝廉太郎	二泉映月（アルフー）	華彦鈞/中国
箱根八里	滝廉太郎	パンプゴ〜ブラブ マタラムから（ガムラン）	インドネシア
雅楽「越天楽」から	日本古曲	素焼きの土器（フォルクローレ）	エル インカ/ペルー、ボリビアなど

全学年を通じて、教育出版社は 95 曲、教育芸術社は 68 曲の教材が掲載されている。各出版社ともに、低学年は童謡やわらべうたを中心に、中～高学年においては、クラシック音楽を取り上げている。オーケストラ作品を題材とした際には、オーケストラで使用される楽器の紹介や、主な旋律の繰り返しや変化、また、リズムや速度などに焦点を当てるなど、教材の内容と関連付けた様々な参考資料が収録されているため、一つの題材から多様なアプローチを行うことが可能である。

鑑賞教材の選択については、学習指導要領で指定されていないため、教師は各学年の目標および内容に適した教材選択をしなければならない。この教材選択は非常に重要であり、学習指導要領に即した観点に基づき授業計画を立案し、実践を評価して改善を加えながら授業づくりを行うことが求められる。授業では、テーマに関する様々な興味深い内容を提示し、児童・生徒それぞれの持つ興味を絶えず刺激するような、つまり、疑問を持たせそれを解決したいという欲求、知識欲に訴えかけるような授業を展開しなければならない。具体的には、

教材研究も教科書を中心とした一般論に留まらず、多様な切り口や方向性からのアプローチなど、あらゆる創意工夫が必要であり、児童・生徒の内在する能力にいかにか刺激を与えるかが、それぞれ教師の課題なのである。

3. 教材開発と授業づくりの提案

鑑賞の授業において、言語活動を取り入れた学習をより充実させるためには、教材研究と学習指導の工夫が不可欠である。特に、鑑賞教材においては、教材をどのような手段でどのように教えるかが重要である。教員は、題材とする作品の楽曲分析を行い楽曲について理解を深めることで、より多様な視点からのアプローチを導き出すことができる。そうすることで、授業内における子どもたちの様子に応じて適切な指導を行うことができ、想定外の発言に対しても子どもたちの意見を尊重し、さらに、その場面に応じた問いを投げかけ授業展開を行うことで、主体的学びと深い理解を促す学習環境の設定に考慮した授業づくりが実践できると考える。

このような問題意識から、ラヴェル作曲「ボレロ」を題材とし、鑑賞領域における授業構想のあり方を提案したい。

3.1 鑑賞教材「ボレロ」について

モリス・ラヴェル Maurice Ravel (1875-1937) 作曲「ボレロ」は、1928年に作曲されたバレエ音楽である。旋律主題の反復と、スネアドラムや弦楽器などで繰り返される2小節単位の全く同型のリズムオスティナートが印象的である。340小節中326小節目までは、調性が変わらず変奏や展開はなく、*pp* から *ff* まで一貫したクレッシェンドで、全曲約15分間の間に次第に音量を増していく作曲技法を特徴としている。管楽器の独奏や重奏、合奏により色彩豊かに音色が変化していくなど、作曲者ラヴェルの音楽表現の工夫が感じ取らせやすい楽曲である。

従って、音楽を特徴付ける要素であるリズム、旋律、楽器の組み合わせ、強弱など、多方面からのアプローチから音楽の構成と様々なオーケストラ楽器について理解し、より充実した鑑賞活動が展開できると考えられる。

3.2 題材の目標と指導観

(1) 題材の目標

- リズムや旋律の特徴、声部の重なりなどを理解する。【音楽表現の創意工夫】
- オーケストラの楽器の音色や組み合わせによる響きの特徴に関心を持っている。【関心・意欲・態度】
- 音楽の構成の仕方を理解して鑑賞する。【鑑賞の能力】

(2) 指導の工夫について

楽曲を通して刻まれる「ボレロ」の特徴的なリズムを体感させるために、実際にスネアドラムを叩く場面を設定する。また、楽器が演奏できる児童・生徒に主題を吹かせ、楽器の特徴や響きを味わう活動を取り入れる。このような表現活動を取り入れた後で、互いに感じたことを交流させながら楽曲の理解を深めさせる。また、子どもたちが曲想をイメージしやすいように、鑑賞について注目させるポイントを示しながら「ボレロ」の表現の豊かさを感じ取らせる。

3.3 授業の構想と評価

	習得すべき基礎的、基本的な知識・技能	評価規準
第1次	<p>○オーケストラの楽器の音色や名称について理解することができる。</p> <p>○楽器編成と、様々な楽器の特徴（構造や音色、奏法）に興味を持つことができる。</p>	<p>・楽器編成と、様々な楽器の特徴を理解している。</p>

第2次	<p>○作曲者と印象派についての知識を習得する。</p> <p>○リズム主題と旋律主題を演奏する楽器の音色を味わうことができる。</p> <p>○楽曲の構成や、オーケストラの響きから生み出される曲想から楽曲の特徴を理解することができる。</p>	<p>・「ボレロ」に関心を持って鑑賞している。</p> <p>・楽曲全体から主題やリズムの現れ方、音量や曲想の変化を感じ取っている。</p> <p>・オーケストラの構成や表現の豊かさを感じ取っている。</p>
-----	--	--

3.4 授業の展開例（第2次）

（1）ねらい

- 楽曲の主題とリズムの規則性による効果を感じ取ることができる。
- オーケストラの響きや様々な楽器の組み合わせによって生み出される曲想の変化を味わうことができる。

（2）教材研究の視点

- 楽曲の主題とリズムの規則性による効果を感じることができているか。
- オーケストラの響きや様々な楽器の組み合わせによって生み出される曲想の変化を味わうことができたか。

（3）展開

学習内容	形態	思考力、判断力、表現力を高める活用場面・発問	○評価 ◆指導上の留意点
1. ボレロを聴く	全体	○楽器の特徴や音色に着目して聞いてみよう。	◆音楽の三要素「メロディー」「ハーモニー」「リズム」をおさえる。
	全体	○スネアドラムに注目して気付いたことはないか。	◆「ボレロ」のリズムについて説明し、実際に叩かせる。 ポイント① スネアのリズム
学習目標：音の重なりが生み出す曲想の変化を味わおう			

2. スネアドラムと 様々な楽器によ る合奏を聴く	全体 全体	○メロディーの音色や音 量の変化に着目して聴い てみよう。 ・音に厚みが出てくる ・音量が大きくなる	◆主題A・B二つの主題の繰り返しにより音楽が構成されていることを理解させる。 ◆楽器を演奏させ、様々な楽器の組み合わせによる演奏効果を伝える。【音楽表現の創意工夫】 ポイント② 旋律や伴奏などの 重なり方
3. 「ボレロ」を鑑 賞する	全体	○クライマックスに向け て曲想はどうなるだろう。	○繰り返しによる演奏効果や多 様な楽器の組み合わせによる強 弱の変化などを読み取らせる。 【鑑賞の能力】 ポイント③ 強弱の設定、オーケ ストラの楽器の音色
4. 曲の構成につい て作曲者ラヴェ ルが工夫した点 について気付い たことを話し合 い発表する	小集団 全体	○班で意見を交換しよう。 ・だんだん音量が大きくな る ・楽器が増えることによる いろんな音色が重なって いく。	○積極的に意見を述べようとし ている。【意欲・関心・態度】 ◆オーケストレーションの魔術 師といわれた作曲者ラヴェルの 魅力を伝える。
5. まとめ			

「ボレロ」の特徴は、AとBの主題（譜例1）の反復およびスネアドラムや弦楽器で繰り返させるリズム¹によって音楽が構成されていることである。従って、楽曲の主題とリズムの規則性による効果を感じ、創造的に表現し鑑賞する力を修得するための活動として、実際に児童・生徒に楽器を

¹ 譜例2のスネアドラムパートを参照。

演奏させることで楽曲への理解を深めることができる考える。

当該授業においては、楽器演奏経験者を対象として演奏する楽器は管楽器を想定するが、リコーダー等を用いてアンサンブルを行うことも可能である（譜例2）。このように、鑑賞教材は合奏教材としても用いることができ、多角的・有機的な授業構成が期待できる。

譜例 1：楽器を替えながら演奏される二つの主題

〈主題 A〉



〈主題 B〉



譜例 2：木管楽器アンサンブルおよび器楽アンサンブルによるボレロ（203～210 小節目）

〈木管アンサンブル〉

Bolero

M. Ravel
arr. A. Toyama

Flute 1
Flute 2
Alto Sax
Horn in F
Snare Drum

〈器楽アンサンブル〉

Bolero

M. Ravel
arr. A. Toyama

ソプラノリコーダー
/ 鍵盤ハーモニカ
アルトリコーダー
/ 鍵盤ハーモニカ
ソプラノリコーダー
/ 鍵盤ハーモニカ
シロフォン
スネアドラム

4. 総括

本稿においては、音楽科教育における鑑賞領域の授業づくりの在り方および学習展開の可能性について考察を行った。教育現場において、児童・生徒がどのようなことに反応し興味を持つのか、およそ想像がつかないことが多い。しかし、集団を相手にした授業は、より多くの生徒が興味を持つ内容にしなければならない。その中でも、児童・生徒が何に興味を持っているかを明らかにし、それを手がかりに問題解決意識を持った授業を展開し学習意欲を高めていく

必要がある。また、発問に対し、想定外の答えが返ってきたとしても、教師はその回答から「ポイント」「キーワード」を拾い、共感し、疑問を投げかけ次の発問に発展させなければならない。このように需要的に意見を聞く雰囲気づくりが、子どもたちに成長のチャンスを生み出し、安心して学ぶことのできる教育環境づくりを実現できると言える。さらに、他者との関わり合いや体験が自己形成への動機づけになるため、授業内の発問や活動の手だてを工夫することが重要である。音楽科教育において、受

動的になりがちである鑑賞の授業も、音楽を聴いて感じたことの意見交換に留まることなく、合奏活動や創作活動などを取り入れることで、主体的・協同的な学びを実現することができ、より発展的な学習内容が期待できるであろう。教師は、児童・生徒に自己を考えさせるための多様な動機づけを行うことのできる授業構成力を持つことで、一人一人の望ましい人格の形成を目指すことが理想である。子どもたちとの関わり方にはさまざまな手段や方法があるが、将来、教員を目指す学生は教育現場において応用できる「手段」を学び身に付けていくということが重要である。今後、実践的指導力の育成に向けた授業実践の在り方について検討し、教員養成課程の授業において、教育現場との連携を視野に入れた、より実践的な学びを展開するための手立てを研究したい所存である。

子ども学科・助教

参考文献：

文部科学省，『小学校学習指導要領解説 音楽編』，東洋館出版社，2017

中央教育審議会，「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」，2012，
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/singi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf，2018年2月28日閲覧

川端眞由美・柴辻純子，「小学校音楽科

の鑑賞教育における課題－鑑賞指導法への提言（2）－」，植草学園大学研究紀要第8巻，2016，pp. 5-14

小笠原真也，「小学校音楽科における鑑賞教材への効果的アプローチ」，京都教育大学紀要第119巻，2011，pp. 169-177